第3回特別展

江戸狩野とその世界

2006

立正大学博物館

目　次

ごあいさつ
1　池上本門寺と江戸狩野
2　池上本門寺の沿革
3　奥絵師狩野家墓所の調査と遺物
4　大名家墓所の調査と遺物
5　狩野派と江戸狩野
付）1 池上本門寺略年表
2 奥絵師狩野家系図
3 木挽町狩野家の作品と粉本

★表紙写真：狩野周信墓所出土青銅製雷神文小箱（池上本門寺所蔵）

例 言

(1)　この図録は、平成 18 年 10 月 16 日（月曜日）から 11 月 18 日（土曜日）の期間に開催した第 3 回特別展「江戸狩野とその世界」の展示図録として作成した。

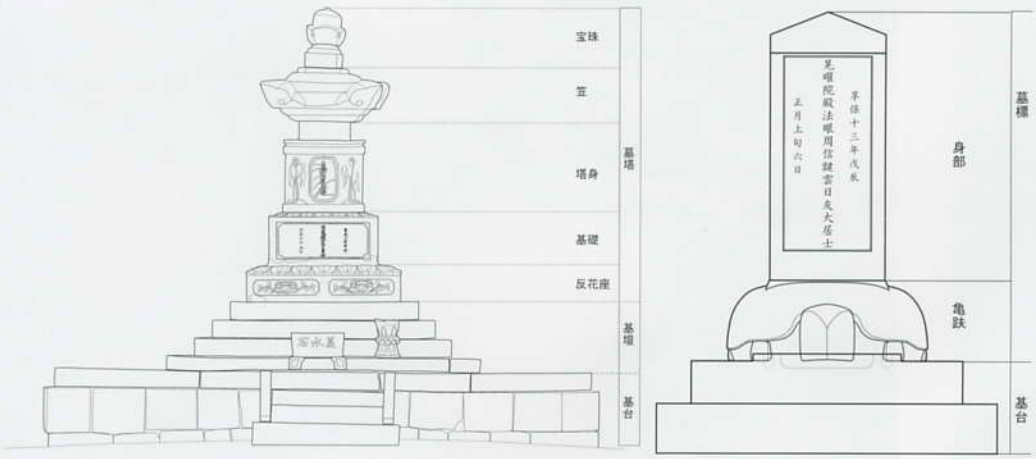
(2)　図録の編集は、館長の指示により内田勇樹（博物館学芸員）が担当し、松原典明が（立正大学文学部講師）これを協力した。

(3)　展示では、日蓮宗大本山池上本門寺および池上永寿院が行った発掘調査の出土遺物を中心に展示し、解説パネル等の付図は、既に刊行されている下記の報告書をもとに一部加筆して作成した。

『池上本門寺　近世大名家墓所の調査』（平成 14 年）

『池上本門寺奥絵師狩野家墓所の調査』（平成 16 年）

《名称凡例》



ごあいさつ

平成14年4月に開館した立正大学博物館では、通常の展示に加え春季の「企画展」と秋季の「特別展」を行い、学内のみならず広く関係学界、さらには博物館が立地する埼玉県北部に住まいされる人々に、展示を公開してまいりました。

今回は第3回特別展として「江戸狩野とその世界〜作品と墓所〜」を開催いたします。

奥絵師の狩野派は狩野宗家のほか三別家がたてられ、江戸時代に隆盛を極めました。

絵師狩野家は古くからの日蓮宗の信徒であり、これら狩野家の墓所が日蓮宗大本山の池上本門寺に営まれております。

池上本門寺では、境内に所在する重要文化財である五重塔の修復に伴う境内整備の一環として、江戸時代の墓所を対象とした調査を行い、木挽町狩野家墓所が発掘調査されました。また隣接する日蓮宗永寿院境内に位置する芳心院（鳥取池田藩初代池田光仲正室・紀州徳川頼宣娘）墓所も発掘調査されました。

いずれの発掘調査にも立正大学が関係したこともあり、このたびの特別展では、狩野諸家のうちで江戸時代を通じて優勢であった木挽町狩野墓所からの出土品と、関連作品を対象としました。

ひと時、伝世絵画作品と埋蔵資料との関わりを考えて頂ければ幸いです。

平成18年10月

立正大学博物館
館長　池上　悟

1　池上本門寺と江戸狩野

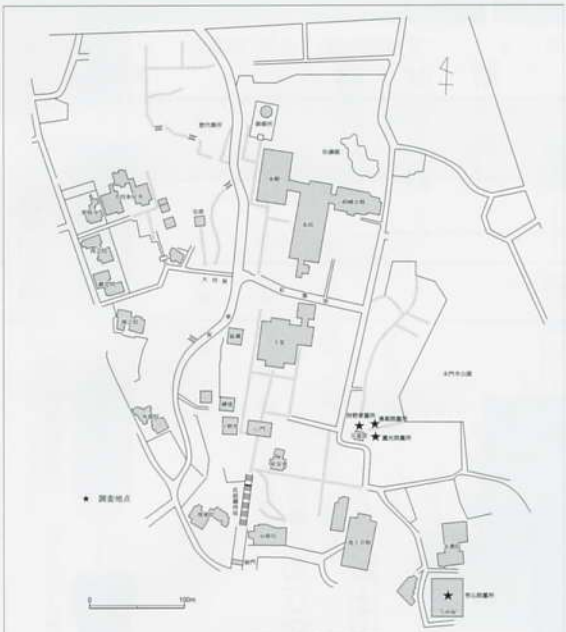
池上本門寺五重塔（国重要文化財）

絵師としての狩野家の成立は、狩野正信が室町幕府八代将軍足利義政の御用絵師に取り立てられることにはじまります。室町幕府崩壊後、織田信長、豊臣秀吉など時の権力者に仕え大坂城・聚楽第、名古屋城をはじめとした城内の障壁画制作を主に任されていました。江戸時代初期には狩野宗家右近孝信の子で３兄弟である永真安信が中橋宗家７代目を継ぎ、探幽守信は鍛冶橋家、主馬尚信が木挽町家を、木挽町家から分家した随川岑信が浜町狩野家を立ち上げ４別家が存在しました。当時２代将軍秀忠から江戸御府内に屋敷を拝領し、この四別家が将軍御目見以上の旗本格の位を得て「奥絵師」と称され、幕府に直属する幕府御用絵師として活躍しました。彼らの墓所の多くは、池上本門寺にあり、宗家中橋狩野家の孝信（元和４年銘宝篋印塔）・貞信（元和９年銘五輪塔）の銘を有する古い江戸初期の塔から確認することが出来ます。そして今回の特別展で展示する木挽町家初祖尚信の塔も慶安３（1650）年に２代目常信によって墓塔が造立されています。そしてこれらの狩野家墓所の殆どは、宗祖日蓮大聖人の荼毘所である宝塔（東京都指定文化財）の周辺を囲むように存在します。

2　池上本門寺の沿革

池上本門寺は、宗祖日蓮聖人御入滅の霊跡であります。開創については、寺伝は武蔵国千束郷池上の地頭で信者であった池上宗仲より寺地の寄進を受けた日蓮聖人が、自ら開創したことを伝えています。しかしながら近年の研究では、開創を日蓮聖人入滅直後の時期に求める考えが示され、日蓮聖人入滅直後に池上宗仲が邸内の持仏堂であった法華堂を拡張し、六老僧の１人である日朗に付与したのが池上本門寺のおこりであると推測されています。

近世初期においては不受不施義を旨とする関東学派の拠点となりましたが、寛永７（1630）年に江戸城内において、幕府主導で行われた受不施義をとる身延山との対論に敗れ、以降受不施義の拠点となりました。その後、日遠が第十六世となると、日遠に深く帰依していた家康側室お万の方と、それに連なる諸侯の外護を受けるようになりました。お万の方が紀州藩徳川頼宣と水戸藩祖徳川頼房の生母であった縁により、紀州藩徳川家の菩提寺となりました。このような徳川将軍家の外護により、安定した寺院経営を行ってきました。


池上本門寺境内配置図

3　奥絵師狩野家墓所の調査と遺物

池上本門寺では、平成９（1997）年10月１日より国の重要文化財・五重塔の解体大修理が行われました。その周辺整備事業の一環として、平成13（2001）年に米澤

藩上杉家（圓光院殿）、熊本藩細川家（清高院殿・高正院殿）の３墓所が、平成 14（2002）年に狩野養朴常信・如川周信・晴川院養信の３墓所の発掘調査が行われました。いずれも上部の墓石と下部の埋葬構造まで調査され、近世大名家および奥絵師墓所の貴重な成果が得られています。

狩野養朴常信墓所の発掘　狩野養朴常信の墓所は、池上本門寺五重塔の北 14m 程の場所に南面して位置しています。この墓所は、亀形の台座上に圭頭形の身部を組み合わせる、いわゆる亀趺碑形墓であり、下部に３段の基台を備えています。規模は、平面 2.11m × 1.90m、総高 2.57m の大きさです。埋葬施設は、台座周囲に掘り込み地業を施し、その西側に接して木棺・外枠と漆喰槨の多重構造を有する主体部を構築しています。主な出土品は、漆塗煙管箱１口、刀装具一括、経巻軸頭一括、かわらけ、釘などです。

狩野養朴常信は、狩野尚信の子であり、狩野探幽の甥にあたり、江戸幕府の奥絵師家・木挽町狩野家（当時は竹川町）２代当主です。絵師の最高位である法印に叙任された人物であり、正徳３（1713）年、行年 78 歳で亡くなりました。

狩野如川周信墓所・狩野晴川院養信墓所の発掘　狩野如川周信・晴川院養信の墓所は、池上本門寺五重塔の北東 13.5m 程の場所に東面して位置しています。この墓所は、亀形の台座上に圭頭形の身部を組み合わせる、いわゆる亀趺碑形墓で、下部に２段の基台を備えています。周信墓所の南に接して養信墓所が並んでいます。規模は、周信墓所が平面 1.34m × 1.34m、総高 1.795m、養信墓所が平面 1.46m × 1.5m、総高 2.03m です。

２代常信墓所と墓内部構造

埋葬施設は、周信墓所が木棺を安置した上に蓋石を配しています。養信墓所は、台座直下に甕棺を直葬し木蓋・石蓋を被せ土で覆ったものです。掘方では、養信墓所が周信墓所の埋葬施設の一部を破壊しています。主な出土品は、周信墓所より筆箱、香箱、眼鏡、煙管、毛抜き、印籠、刀子、銭貨などが、養信墓所からは、遺骨のみの出土であり副葬品は検出されていません。

狩野如川周信は、狩野常信の子、江戸幕府の奥絵師家・木挽町狩野家（当時は竹川町）３代当主です。享保４（1719）年法眼に叙任された人物であり、享保 13（1728）年に行年 69 歳で亡くなりました。

３代周信墓所ご遺骨検出状態と出土の青銅製雷神文小箱

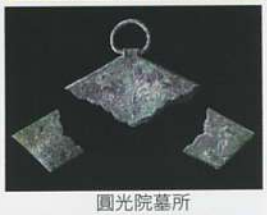
狩野晴川院養信は、木挽町狩野家九代当主であり、天保５(1834)年に法印に叙任され、晴川院と称し、天保９（1838）年以降の江戸城御殿再建にあたり、障壁画作成の主導的役割を果たしました。弘化３（1846）年に行年 51 歳で亡くなりました。

４　大名家墓所の調査と遺物

池上本門寺では、五重塔解体大修理に伴う周辺整備事業で、

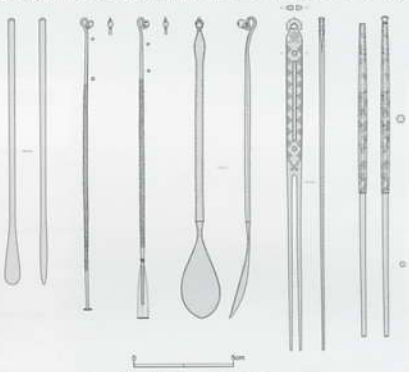
狩野家墓所調査に先立って平成13年に米澤藩上杉家（圓光院殿）、熊本藩細川家（清高院殿・高正院殿）の3墓所が調査されました。そして永寿院では鳥取藩池田家池田光仲の正室で徳川家康の孫娘に当たる芳心院墓所の修復調査が行われました。今回の展示では、特に旗本格の奥絵師狩野家の調査例と比較するために大名家墓所の調査結果も併せて出土品を中心に展示しました。

圓光院日仙榮壽大姉墓所の調査　圓光院殿は、紀州藩第2代藩主徳川光貞の娘禰為姫として生まれました。のち延宝元（1673）年に榮姫と名を改め、延宝6（1678）年、19歳で米澤藩第四代藩主上杉綱憲の正室として迎えられています。宝永元（1704）年に綱憲が逝去すると、菩提を弔うために落飾し、以後は圓光院と称するようになりました。宝永2（1705）年に行年46歳で亡くなりました。本門寺の墓所は百箇日の法要に合わせて造営されたことが文書で遺っています（「上杉家御年譜」）。圓光院殿墓所の上部構造は、3段の基壇に4段の基台を据え、その上に宝塔を安置しています。下部の構造は、約10m四方を約1m掘り下げ版築という土木工法により基壇部まで築いています。そしてこの基壇の中央部に間知石を方形に組んだ石槨という埋葬主体部を築いています。この埋葬主体部には石櫃が納められていました。その中には大小の白磁有蓋壷（骨蔵器）2点と木片や鉄製釘と錠前が発見され、骨蔵器は錠前付の木製木箱に厳重に納められていたことが推定されています。また、主体部には副室が確認されており、その内部から遺灰とともに葬送に使われたと思われる青銅製幡飾り金具や青銅製の垂飾金具などが出土しています。



圓光院墓所
骨蔵器出土状態と幡飾金具

清高院殿妙秀日圓大姉墓所の調査　清高院殿は、熊本藩2代藩主（細川家4代当主）細川光尚の側室で、同3代藩主（同5代当主）綱利および支藩である新田藩の祖細川利重の生母です。光尚の死後清高院殿と称しました。宝永7（1710）年に行年94歳で亡くなりました。清高院殿墓所の上部構造は、圓光院墓所と同じです。基壇より下の下部構造は、地下約2mのところに間知石3段積み上げの石槨を築き内側に二重の漆喰槨を構築する構造で、漆喰槨内に伸展葬木棺を安置する形式でした。木棺内からは漆喰槨二重構造の影響で遺存状態がよい漆塗箱類・脇息が発見されました。展示では、脇息内引き出内に収められていた銀製香道具類をご覧ください。



清高院墓所出土香道具一式

芳心院殿妙英日春大姉墓所の調査　不変山栄寿院は心性院日遠（両山16世）による開山の寺です。日遠に帰依したお万の方の縁で孫娘で鳥取藩池田家初代光仲に嫁いだ芳心院妙英日春大姉の墓所が築かれました。永寿院では、芳心院の300回忌に向けて墓所整備に平成16年から着手し、整備事業の一環で発掘調査が行なわれました。芳心院墓所は、墓塔・基台・基段の組み合わせは他に共通しています。特筆すべき点は広さが600㎡（約200坪）あり、外郭を2mの深さの堀が巡り外界と墓所内が隔離されている点です。大きさでは近世期における一人の女性の墓としては日本最大級の規模と思われます。また、加えて埋葬主体部が墓塔内の基礎と返り花座の中心を刳り抜いて造られており内部にから青銅製骨蔵器が出土し

ています。この骨蔵器は鋳造品であり全国でも非常に珍しい遺物です。

5　狩野派と江戸狩野

15世紀中葉以来江戸時代を通して京都・江戸を中心に全国的に活躍した「狩野派」の歴史に簡単にふれ、「江戸狩野」が登場するまでを振りかえってみます。

狩野派の狩野派の祖・祐勢正信（1434-1530）は、大和絵系土佐派から出発します。室町幕府八代将軍足利義政に御用絵師として取り立てられたことで力を発揮し、ここで狩野派の進むべき方向性を見出したといわれています。以来、元信、永徳らに代表される宗家の絵師は、京都を中心に活躍しました。特に元信が築き上げた画法（筆様）や画体の統一による徹底した集団制作・作画活動の組織化というものは、16世紀末期には安土城金碧の障壁画（太田泉守牛一『信長公記』）や、慶長年間に徳川の威信をかけて造営された二条城の障壁画や名古屋城本丸の障壁画制作などを完璧に成し遂げました。これらの障壁画の制作で国家的なプロジェクトに参画した狩野派の御用絵師としての「狩野派」集団の地位を確固たるものとしました。このように中世末期には信長・秀吉の御用絵師として京都を中心に活躍した狩野派ですが、永徳の兄弟で休白長信は、慶長期には家康に召され京都から駿府に入り、2代目秀忠の江戸入府には随伴し法橋に叙せられました。この長信がいわゆる後の江戸で活躍する狩野派、いわゆる「江戸狩野」の先駆的な人物といえます。江戸入りした狩野派は、休白長信の子昌信、後に「奥絵師」となる探幽・尚信、安信が入府し、やがて徳川幕府の御用絵師に取り立てられます。探幽・尚信・安信に加えて岑信が加わり4別家を立ち上げそれぞれが「奥絵師」の家柄として発展しました。

京都の地で中世以来の伝統と画風を踏襲し守り続けた「京狩野」に対して、長信の徳川御用絵師登用以降、特に探幽が築き上げた画法が「江戸狩野様式」と称され、以後江戸狩野派の統一された様式として確立し、これを「江戸狩野」と称しました。「江戸狩野」を築いた探幽の弟の尚信は、池上本門寺で調査された木挽町狩野家の開祖です。尚信は、兄探幽の探幽画風を学びましたが、水墨画の表現を好み独自の画風も築き上げています。今回展示した木挽町2代目養朴常信の作品、波涛雲龍図などは父の画風を継いだものでしょうか。3代目周信は、絵師としての評価はみな一様に高くありません。彼の墓所から見つかった副葬品のうち青銅製雷神文小箱と青銅製亀甲・菊花流水文小箱の組み合わせは、当時民衆が最も好んだ琳派の最も典型的な組み合わせといえます。当時江戸狩野の筆頭とも称された立場にある周信がこの文様を好んで身の回りおいていたというのも何とも複雑な心境です。粉本主義といわれる狩野派とは正反対の自由で華やかな琳派への憧れみたいな気持ちがあったのでしょうか。江戸狩野最後の奥絵師といっても過言ではなく、探幽以来の天才的な絵師として常に示されるのが狩野晴川院養信です。彼の墓所は、石塔の直下に甕棺が埋葬されており、副葬品も全くありませんでした。世に残る画業の数々とは正反対に寂しい葬られ方でした。今回は遺骨から複顔した養信を展示しますのでご高覧ください。

最後になりましたが、今回の特別展開催に際しまして、日蓮宗大本山池上本門寺・早水日秀執事長、不変山永寿院住職・吉田尚英師には、発掘調査の出土資料の借用および展示のご協力を賜りました。また、立正大学仏教学部教授で法華経文化研究所所長の坂輪宣敬先生、本門寺霊宝殿学芸員・安藤昌就氏、佛教石造文化財研究所主任研究員・本間岳人氏にはご後援賜り、展示においても適切なご助言を賜りましたことを記して御礼申し上げます。なお、ここに記せなかった多くの関係各位のご協力により特別展が開催できましたこともあわせて厚く御礼申し上げます。

第３回特別展

開期：平成18年10月16日（月）～11月18日（土）

講演

「奥絵師江戸狩野家墓所の調査」
本間岳人講師（佛教石造文化財研究所主任研究員）

「池上本門寺の沿革と狩野家」
安藤昌就講師（池上本門寺霊宝殿学芸員）

記念講演

「江戸狩野とその世界」

坂輪宣敬先生
（立正大学仏教学部教授・立正大学法華経文化研究所所長）

協力：立正大学法華経文化研究所

後援：日蓮宗大本山池上本門寺・池上永寿院

編集・発行：立正大学博物館
発行日：平成18年10月16日
埼玉県熊谷市万吉1700
TEL 0485-536-6150　FAX 0485-536-6170
URL　http://WWW.ris.ac.jp/museum/
Email museum@ris.ac.jp